一般会計等決算のポイント

令和元年度決算

久留米市

～ もくじ ～

1．令和元年度決算の状況

（1）令和元年度の一般会計、特別会計決算額 … 2

2．令和元年度一般会計決算について

（1）歳入・歳出決算 … 3

（2）市民1人あたりに使われたお金は… … 5

3．令和元年度の主な事業 … 6

4．久留米市の財政状況について

（1）基金はどれくらいあるの … 10

（2）市債はどれくらいあるの … 11

（3）歳入はどうなっているの … 14

（4）歳出はどうなっているの … 15

（5）財政の健康状態をチェックしてみよう … 17

（6）これからの久留米市の財政はどうなるの … 21

5．決算に関する資料 … 23

この「一般会計等決算のポイント」は、令和元年度久留米市の『決算の概要』と『財政状況』について、わかりやすく説明し、市民の皆さんに行政活動の成果を知っていただくために作成しています。

市民生活の向上や地域の浮揚など久留米市の将来を見据えた中長期的な課題の解決に取り組みつつ、今後も引き続き健全な財政運営を行っていくためには、より一層の創意工夫と市民の皆さんのご理解ご協力が必要であると考えております。

この冊子をご覧になり、久留米市の財政状況について知っていただくきっかけとなりましたら幸いです。

１． 令和元年度決算の状況

（１）令和元年度の一般会計、特別会計決算額

令和元年度決算における一般会計の実質収支は、約６.７億円の黒字となりましたが、これは市税の減少や義務的経費の増加による収支不足を解消するため、平成２０年度以来となる財政調整基金を２０億円取り崩しを行った結果の決算となっています。

また、特別会計全体の実質収支は、約２７.５億円の黒字となりました。

（単位：千円）

会計名	歳入	歳出	差引（形式収支）	翌年度へ繰り越すべき財源	再差引（実質収支）
一般会計	129,822,348	128,743,052	1,079,296	413,295	666,001
特別会計	85,788,251	83,035,553	2,752,698	5,170	2,747,528
合計	215,610,599	211,778,605	3,831,994	418,465	3,413,529

特別会計毎決算額

（単位：千円）

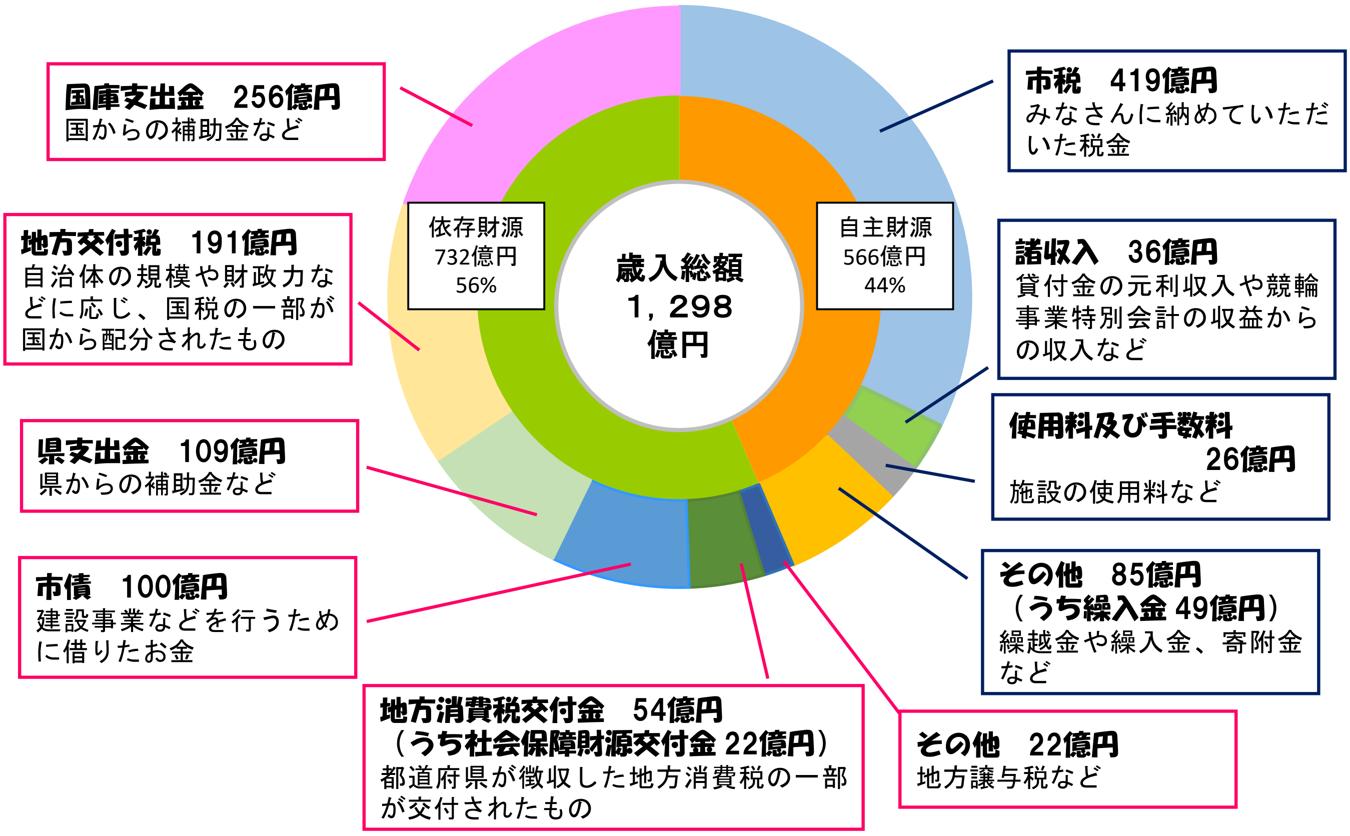
会計名	歳入	歳出	差引（形式収支）	翌年度へ繰り越すべき財源	再差引（実質収支）	一般会計からの繰入金	一般会計への繰出金
国民健康保険事業	33,946,594	32,651,971	1,294,623	5,170	1,289,453	3,090,099	0
競輪事業	19,319,406	18,721,437	597,969	0	597,969	0	180,000
卸売市場事業	377,899	367,461	10,438	0	10,438	83,000	0
住宅新築資金等貸付事業	37,130	1,984	35,146	0	35,146	0	0
市営駐車場事業	89,691	81,664	8,027	0	8,027	0	160
介護保険事業	26,832,472	26,302,857	529,615	0	529,615	4,042,561	0
農業集落排水事業	249,584	238,178	11,406	0	11,406	159,000	0
特定地域生活排水処理事業	206,918	193,547	13,371	0	13,371	69,000	0
後期高齢者医療事業	4,487,504	4,387,024	100,480	0	100,480	1,163,230	0
母子父子寡婦福祉資金貸付事業	241,053	89,430	151,623	0	151,623	0	882
合計	85,788,251	83,035,553	2,752,698	5,170	2,747,528	8,606,890	181,042

2．令和元年度一般会計決算について

（１）歳入・歳出決算

久留米市の令和元年度一般会計決算の歳入と歳出を見てみましょう！
なお、詳細は２３ページの『５.決算に関する資料』も見てね。

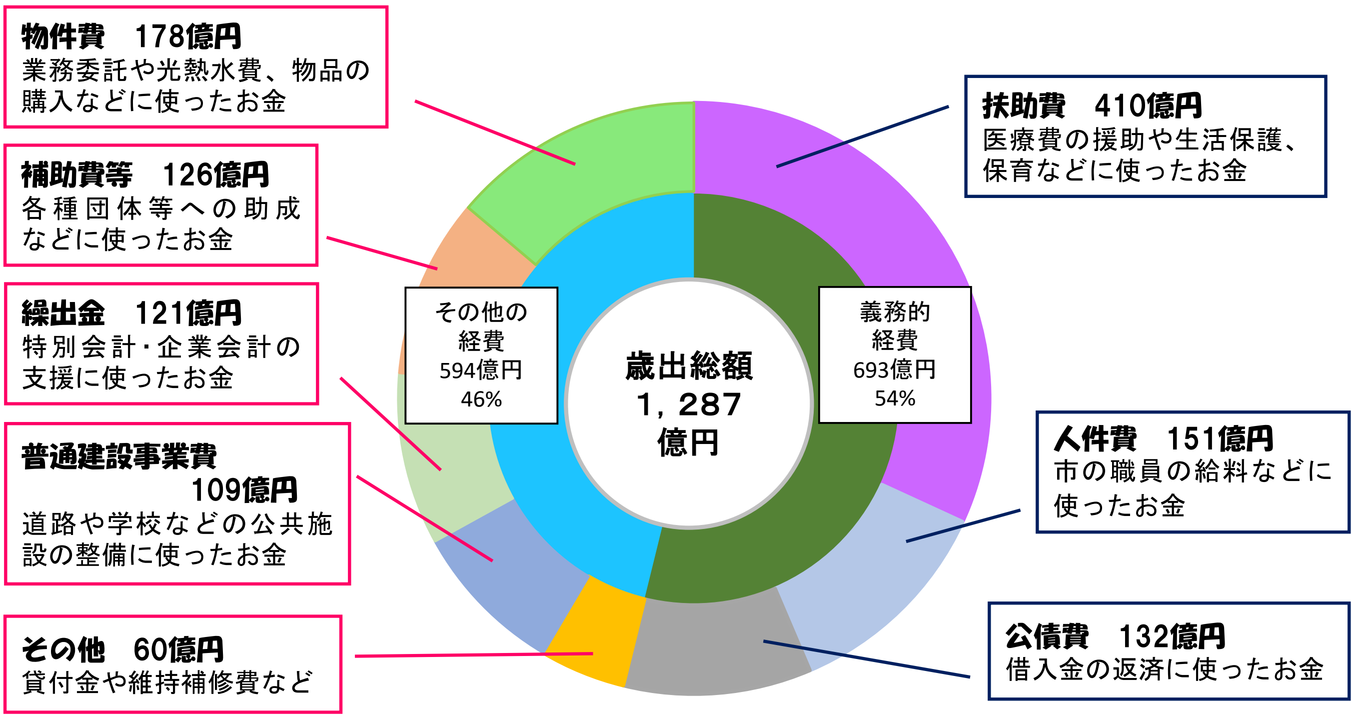
令和元年度一般会計
歳入



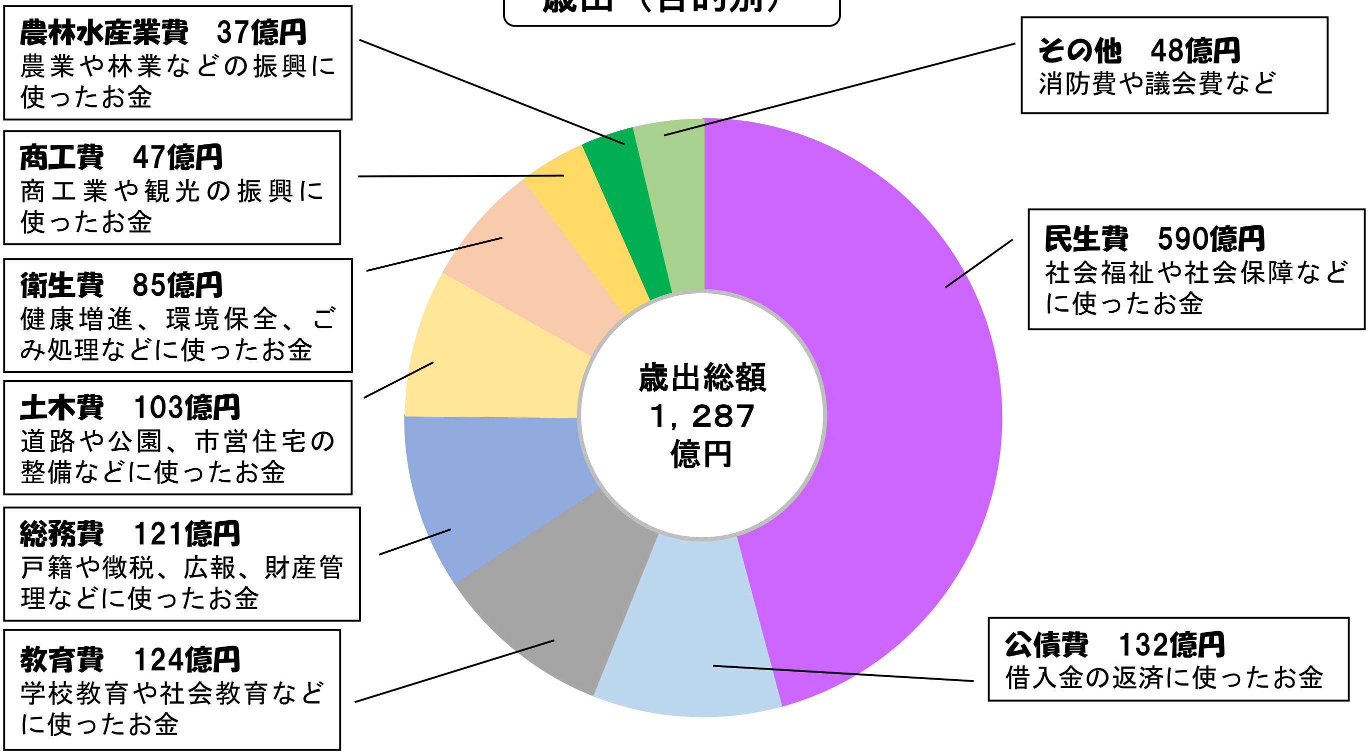
※自主財源は、市が自主的に調達することができる収入のことで、依存財源は、国や県から交付または割り当てられる収入のことです。

歳入の根幹である市税は、法人市民税が減少したこともあり対前年度比1.6%の減、地方交付税も合併算定替の終了などにより、対前年度比1.6%の減となりました。
一方で、幼児教育・保育の無償化（R1.10）の財源として創設された地方特例交付金（202.4%の増）や国庫支出金（6.3%の増）が増加したこと、収支不足を解消するため財政調整基金をはじめとした基金（繰入金：108.3%の増）を取り崩したことで、令和元年度の歳入総額は、約1，298億円（対前年度比 1．8%の増）となりました。

令和元年度一般会計
歳出（性質別）



歳出（目的別）



※歳出（性質別）は、支出を経費の性質により分類したもので、歳出（目的別）は、支出を行政分野の目的により分類したものです。

義務的経費は、扶助費が制度改正に伴う児童扶養手当の増加のほか、障害児通所支援給付費などが増加したこともあり、対前年度比３.８％の増、公債費も増加したため、全体としては、対前年度比 ２.８％の増となりました。

また消費税率の引き上げに伴うプレミアム付商品券事業の実施による物件費（４.３％の増）の増加や、特別会計への繰出金（３.６％の増）も増加したことから、令和元年度の歳出総額は約１，２８７億円（対前年度比 １.９％の増）となりました。

（2）市民１人あたりに使われたお金は･･･

一般会計の決算を市民一人当たり（令和２年３月３１日現在 304，705人）に計算すると、約**４２.３**万円の市民サービスを行っています。

民生費	公債費	教育費
社会福祉や社会保障 などに使ったお金 約**19.4**万円 ◇私立保育所等施設整備事業 ◇生活困窮者自立支援事業 ◇支え合いの仕組みづくり事業 など	借入金の返済 に使ったお金 約**4.3**万円 ◇市民一人当たりの市債残高 約46.6万円	学校教育や社会教育 などに使ったお金 約**4.1**万円 ◇教育ＩＣＴ活用事業 ◇学校施設空調機整備事業 ◇美術館事業 など
総務費	**土木費**	**衛生費**
戸籍や徴税、広報、財産管理 などに使ったお金 約**4.0**万円 ◇ふるさと・久留米応援事業 ◇校区コミュニティセンター等建築費補助事業 ◇ｅ－市役所環境構築事業 など	道路や公園、市営住宅の整備 などに使ったお金 約**3.4**万円 ◇街路事業 （中環状道路、内環状道路） ◇自転車利用促進事業 ◇橋りょう耐震補強事業 など	健康増進、環境保全、ごみ処理 などに使ったお金 約**2.8**万円 ◇健康増進事業 ◇乳幼児等健診事業 ◇上津クリーンセンター改修事業 など
商工費	**農林水産業費**	**その他**
商工業や観光の振興 に使ったお金 約**1.5**万円 ◇プレミアム付商品券事業 ◇中小企業金融対策事業 ◇地域企業育成事業 など	農業や林業などの振興 に使ったお金 約**1.2**万円 ◇園芸農業等総合対策事業 ◇畜産振興総合対策事業 ◇青年・女性農業者育成事業 など	消防費や議会費、労働費 などのお金 約**1.6**万円 ◇議会ICT化事業 ◇ワーク・ライフ・バランス促進事業 ◇消防団格納庫整備事業 など

「住みやすさ日本一」の実現に向け、いろいろな事業に使っています。

3．令和元年度の主な事業

『住みやすさ日本一』の久留米を目指し、「暮らし・教育」「安心・快適・都市力」「地方創生、経済成長・雇用」の３つのまちづくりに力を入れて取り組みました。
令和元年度の主な事業を紹介します。

（１）暮らし･教育（おもいやりと育み）のまちづくり

小・中学校くるめ学力アップ推進事業

決算額：72，895千円

学力向上実践推進校を指定し、学力向上プランに基づく授業づくりや指導力向上に向けた実践研究に、組織的に取り組みました。
また、モデル校１校（中学校）において、統括学習コーディネーターを配置し、学習指導講師を活用した放課後学習会も実施しました。

待機児童対策事業

決算額：62，515千円

保育士人材確保のため、職員配置基準を超えて保育士を雇用する経費の助成や保育士を目指す人への進学支援、市外在住の保育士が市内の保育所等へ再就職する際の転入に要する経費の助成などを行いました。
また、市中心部に多く発生する入所待ち児童への対応と周辺部の保育施設の空き定員の活用を図るため、**送迎保育ステーション（H31.4開設）**を拠点としたバスによる送迎を実施しました。

送迎保育ステーション

予防接種事業・特定感染症予防対策事業

決算額：946，572千円

おたふくかぜの発症及び重症化の予防や感染拡大の防止のために、**おたふくかぜワクチンの一部公費助成**を行いました。
また、風しんの流行を防ぐため、風しん抗体検査を実施し、抗体値が低いと判定された方を対象に**風しん予防接種**を実施しました。

これらの事業の他、保育所等における乳児の事故防止、学習用コンピュータ端末を活用した教育ICT、若年末期がん患者の在宅療養支援、医療的ケアが必要な在宅重度心身障害者への支援、女性の働き方応援講座や女性のまちづくり参画講座などの人材育成や女性労働者の活躍促進などに取り組みました。

（２）安心・快適・都市力（やすらぎと発展）のまちづくり

中心市街地再整備事業

決算額：255，501千円

集約型の都市づくりを目指し、土地の高度利用と都市機能の更新を図るため、**ＪＲ久留米駅前第二街区第一種市街地再開発事業**への支援等を行いました。

防災対策強化事業

決算額：50，808千円

的確な避難情報発令を行うための**災害対策本部支援システムの構築**や、スマートフォンなどで確認できる**Ｗｅｂ版ハザードマップ**を作成し、防災情報ツールの充実を図りました。

市街地浸水対策事業

決算額：30，808千円

国・県・市で組織されている「浸水対策検討会」で浸水対策案や役割分担などを検討するとともに、市独自でも**「豪雨対策プロジェクトチーム」**を発足させ、検討を進めるなど、**浸水被害の軽減対策**に取り組みました。

中心市街地拠点緑化事業

決算額：28，530千円

まちなかで緑を感じ、憩い、楽しむことのできる都市空間を創出するため、明治通り沿いの**緑化スポット整備**を行いました。

また、官民連携による賑わい創出や効率的な公園の維持管理を実施していくため、**都市公園等への民間活力導入**検討業務に着手しました。

これらの事業の他、駐輪場の施設改善や放置自転車対策、広域幹線道路網をはじめとした道路整備、市街化調整区域における開発許可制度の見直し、地域コミュニティ組織や市民活動団体の活動に対する支援などに取り組みました。

（３）地方創生、経済成長・雇用（魅力と活力）のまちづくり

観光プロモーション推進事業

決算額：29，935千円

　筑後圏域での観光連携に取り組むため、筑後地域全体での周遊ルートを造成し、**「筑後地域観光案内マップ　くるめｐｌｕｓ」**を作成しました。

　また、自衛隊等の立地を活かした**「自衛隊関連観光ルート」**を造成し、地域の観光資源の活用に努めました。

久留米シティプラザ

決算額：757，094千円　※人件費含む

「第九」演奏会

　市制施行130周年記念「松竹大歌舞伎」など上質で話題性のある鑑賞事業の提供や、全国規模の学会などのMICE開催支援、六角堂広場等を活用したまちなかの賑わいづくりに取り組みました。

　また、電力入札導入による経費削減など**効率的な施設管理**に努めました。

【参考：久留米シティプラザ決算】　（単位：千円）

歳入		歳出	
施設使用料など	93,956	施設管理費	441,192
駐車場使用料	16,267	魅力向上・発信事業	24,498
寄附金など	926	六角堂広場管理運営	25,368
チケット収入	27,858	提携チケット等販売負担金	25,993
		人件費	240,043
歳入（計）	139,007	歳出（計）	757,094

収支差額　▲ 618,087

（H30年度の収支差額）　▲ 658,244

ＭＩＣＥ誘致推進事業

決算額：37，223千円　※10款7項1目のMICE誘致推進事業決算額

　東京2020オリンピック・パラリンピックにおけるケニア共和国及びカザフスタン共和国の事前キャンプを受入れるための**体制整備や市民の機運醸成**に取り組んだ他、ラグビーW杯のパブリックビューイング等を実施しました。

　これらの事業の他、久留米産農産物のブランド化の推進、次代の農業を担う青年農業者・女性農業者の育成、企業誘致の推進、地場企業の育成、雇用の確保や働きやすい環境づくりなどに取り組みました。

その他の主な事業

ふるさと・久留米応援事業

寄付受納額　：　**879，452**千円

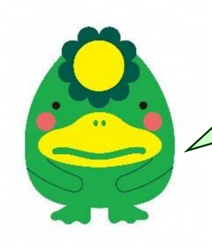
返礼品決算額：　**346，176**千円

「ふるさとを応援したい」「ふるさとに貢献したい」という皆さまの思いをまちづくりに活かすふるさと納税制度を通じ、全国の皆さまから心温まるご寄付をいただきました。
いただいた寄付金は、久留米市のまちづくりに有効に活用させていただいています。

≪寄付金を活用した主な事業≫

乳幼児等健診事業
学校ICT環境整備事業
久留米総合スポーツセンター事業
定住誘導推進事業
小・中学校くるめ学力アップ推進事業
待機児童対策事業

定住誘導推進事業
（移住定住促進センター受付窓口）



いただいた寄付金で、乳幼児等健診事業など様々な**久留米市のまちづくり**に活用させていただきました。

e－市役所環境構築事業

決算額：**121，280**千円

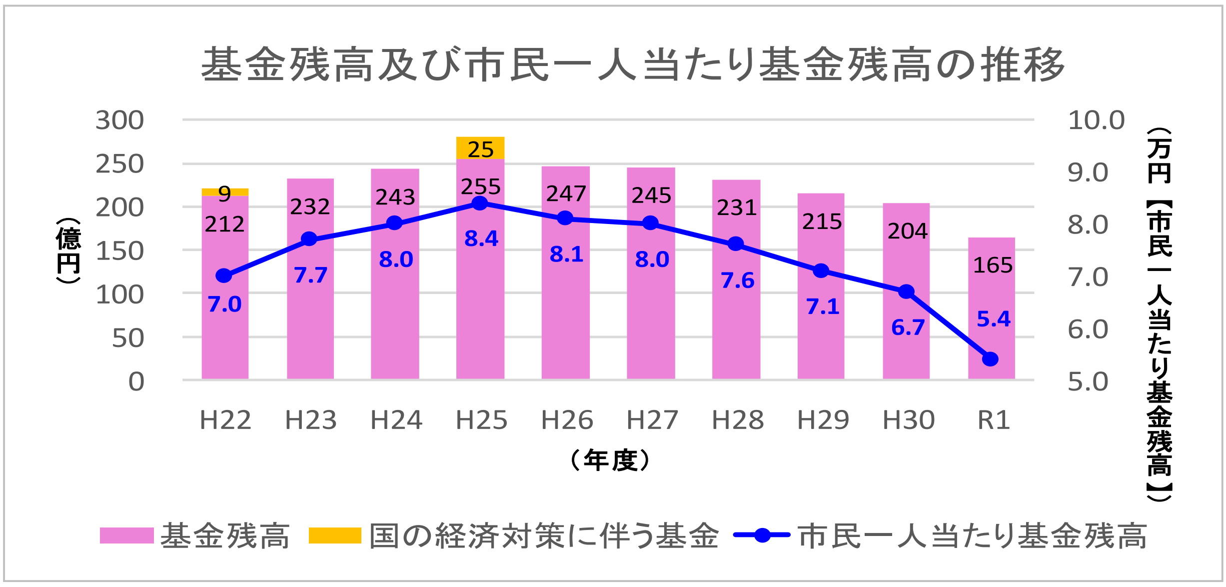
意思決定の迅速化や事務の効率化を図るため、**文書管理・電子決裁システム**を構築しました。令和２年度から稼働を開始し、事務の効率化、電子文書の適正管理の他、ペーパレス化による執務環境の改善などにつなげています。
また、定型業務の自動化、省力化を進めるため、RPAを導入しました。
今後も、スピーディで効率的な行政運営を行う「**e－市役所**」の実現に取り組み、市民の皆さんにとってより便利で利用しやすい行政サービスの提供に努めます。

4．久留米市の財政状況について

（１）基金はどれくらいあるの

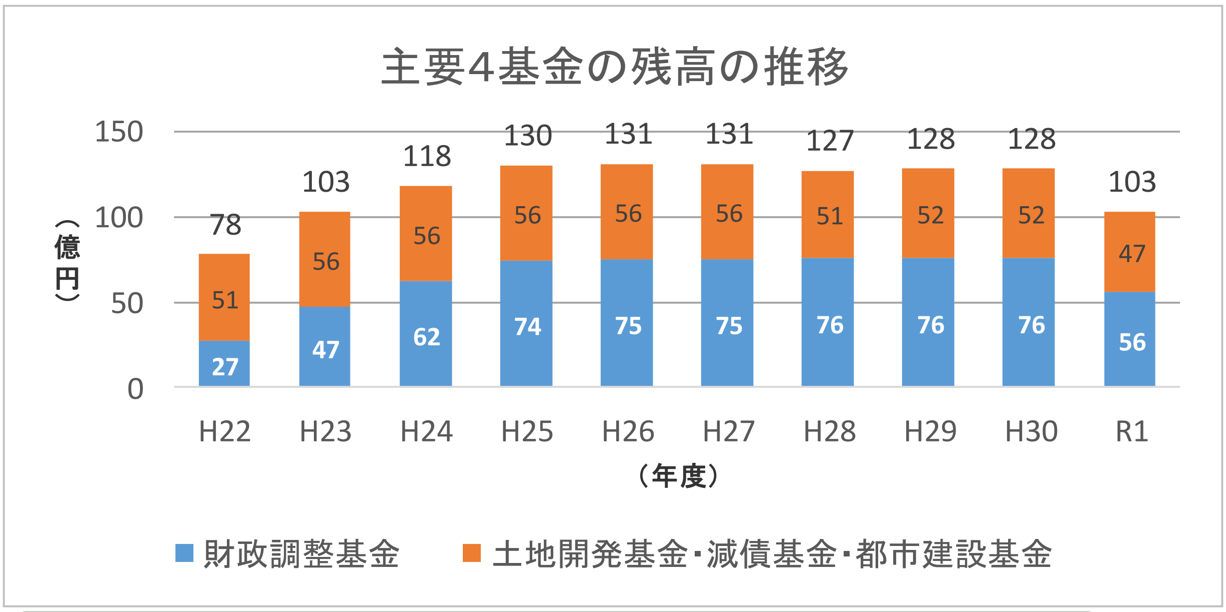
①基金残高の状況

令和元年度末の基金残高は約１６５億円で、残高を単純に人口で割った市民一人当たりの残高は、約５.４万円（１.３万円の減）となりました。
財政調整基金や土地開発基金、減債基金など主要４基金を取り崩したこともあり、基金残高は前年度から大幅に減少しました。



②主要４基金の残高の状況

久留米市では、不測の財源不足に対応するための重要な基金として、財政調整基金、土地開発基金、減債基金、都市建設基金を主要４基金と位置づけています。
令和元年度は市税、地方交付税、地方債のうち臨時財政対策債が大きく減少し歳入環境が悪化したこともあり、財政調整基金、土地開発基金、減債基金を合わせて２５億円取り崩しました。



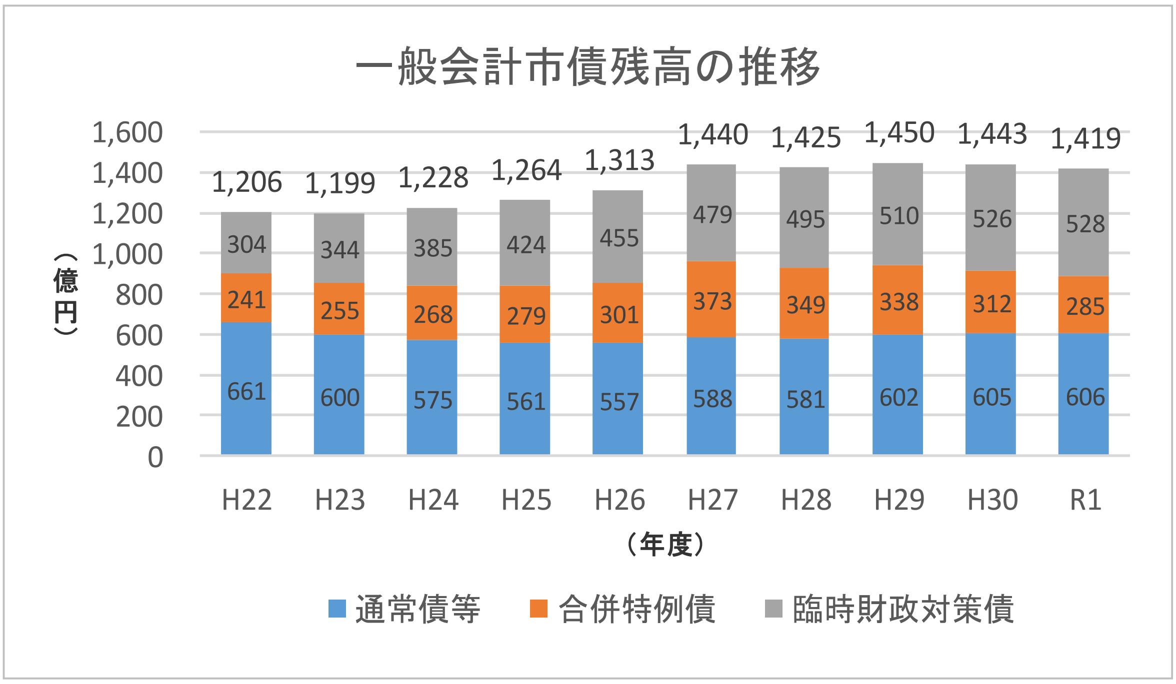
久留米市では、市が保有する基金から出来るだけ多くの運用益が得られるように努めています。令和元年度の運用益は、債券等20,008千円、預金等3,377千円で合計23,385千円となりました。

（２） 市債はどれくらいあるの

①市債残高の状況

令和元年度末の一般会計における市債残高は、約1,419億円です。

臨時財政対策債※の残高が微増していますが、全体としては合併特例債の償還が進んだことや執行段階での工夫により市債発行の抑制に努めた結果、前年度から市債残高は24億円減少しました。



※臨時財政対策債とは･･･

国が地方自治体に配分する地方交付税の財源が不足するため、不足する地方交付税の代わりに、地方自治体が自ら地方債（市債）を発行して財源を調達するものです。

なお、借り入れた臨時財政対策債の元利償還金（返済額）は、その全額が、後年度の地方交付税の算定において措置されています。

市債は、原則、建設事業などの経費に充てるときにしか発行できないと法律で決められています。

収入が不足する（赤字になる）からといって、むやみにお金を借りることは出来ません。

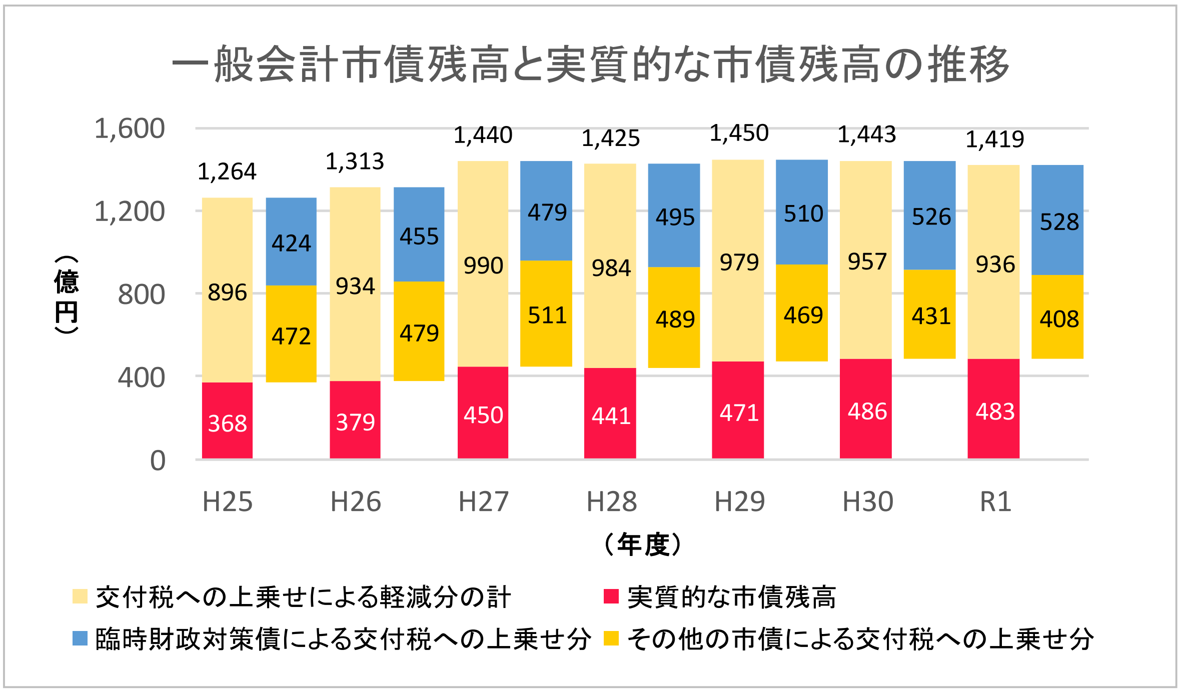
②実質的な市債残高の状況

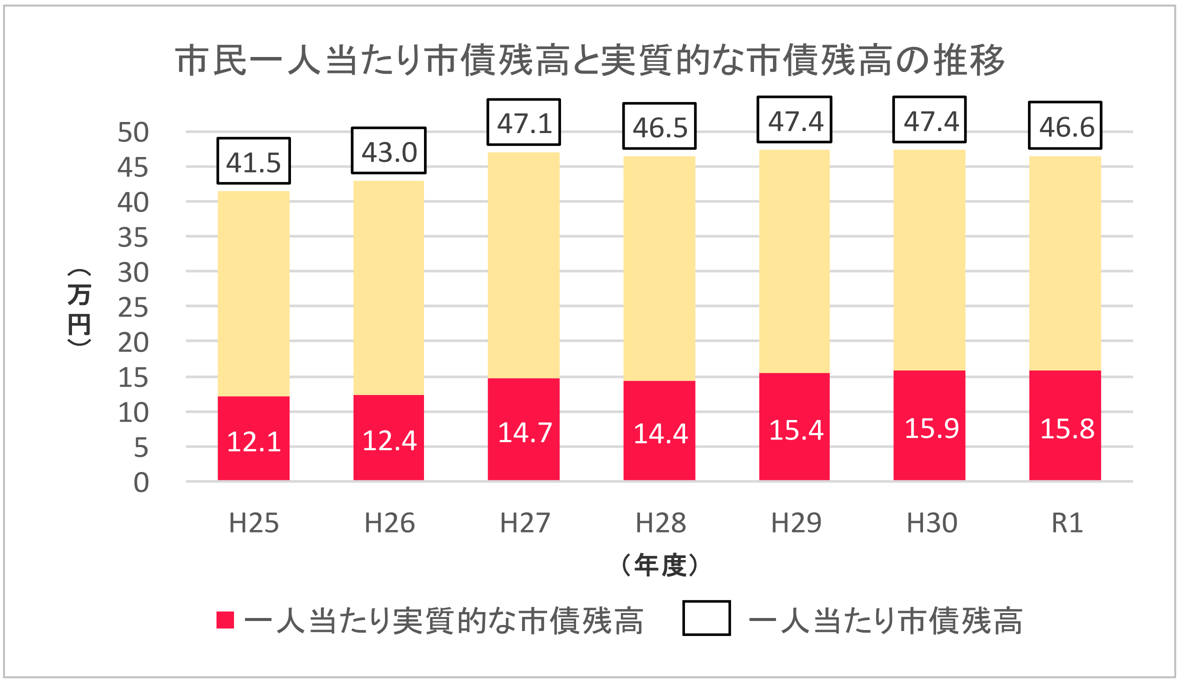
令和元年度末の一般会計における市債残高約1,419億円を、単純に人口で割った市民一人当たりの残高は約46.6万円（ 0.8万円の減）になります。

これらの市債残高の中には、返済額の一部が国から交付される地方交付税の配分に上乗せされるため、市の負担が軽減されるものがあります。

その負担軽減分を除いた「実質的な市債残高」は約483億円で、市民一人当たりにすると約15.8万円（0.1万円の減）になります。

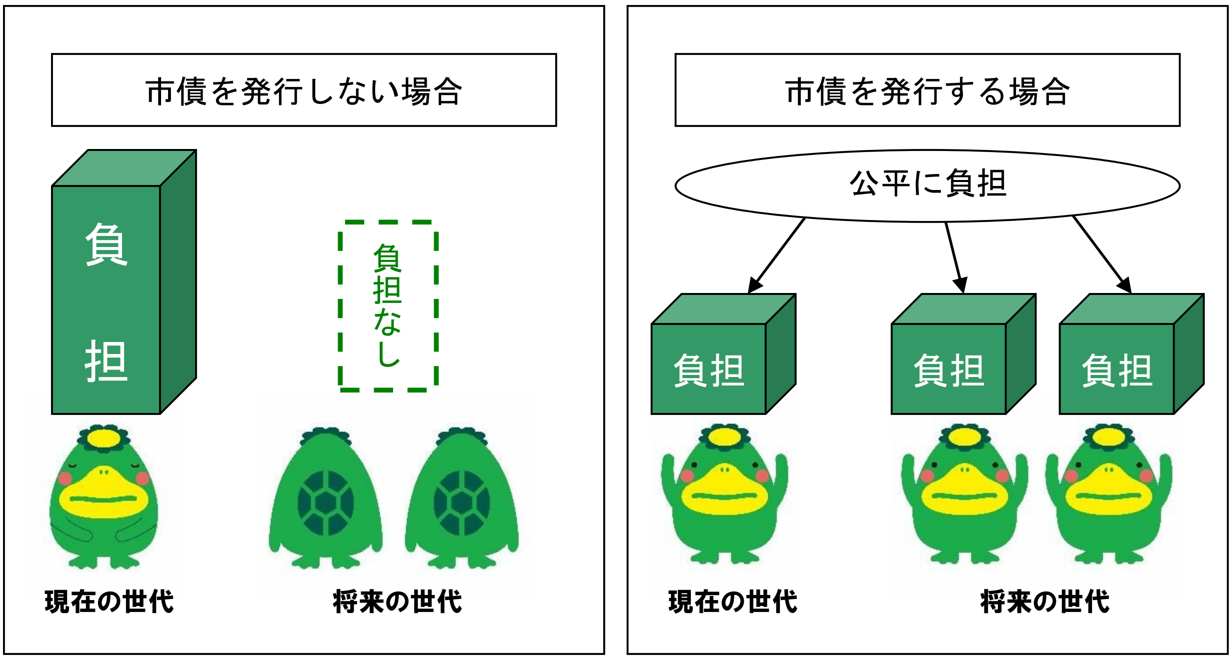
久留米市では、お金を借りるときには、なるべく地方交付税への上乗せがある有利な借り入れを行うよう努めているため、「実質的な市債残高」が低く抑えられているという特徴があります。



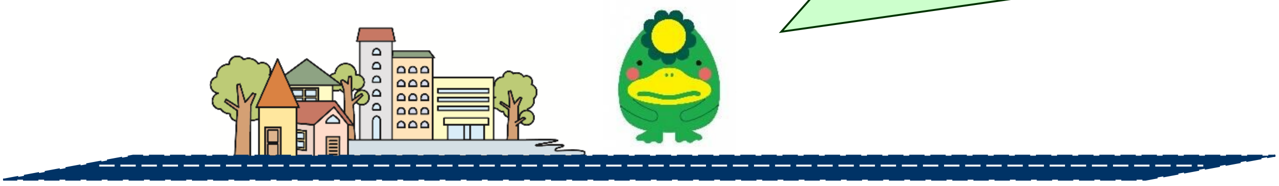


借り入れ（市債の発行）をしないで、建設事業をすることは出来ないの？

久留米市では、道路や公園、学校のような公共施設を作るときには、その年度に収入した市税だけではなく、市債を発行して資金を用意します。
作られた施設は、今後長い間利用でき、現在の世代だけではなく将来の世代にもそのサービスを提供することになります。
したがって、施設を作る資金の一部を市債で用意し、将来にわたってその返済を行うことで、現在の世代だけではなく将来の世代にも、施設を作る費用を公平に負担してもらっています。
また、施設を作るときには、なるべく国や県などからの補助金をもらえるよう努力し、市税や市債での負担がより一層少なくなるよう努めています。



このようにして作られた道路や公園、学校のような公共資産は、約３，０４５億円（※１）と評価されます。
この資産額は、新地方公会計制度の取り組みで作成した財務書類から把握した数字です。
財務書類から得られる情報を分析した『久留米市の財務書類（平成３０年度版）』は、久留米市公式ホームページ『市政情報 ＞ 予算・決算・財政 ＞ 決算＞ 財務書類』に掲載しています。



（※１） 平成３０年度財務書類〔貸借対照表（一般会計等）〕より